

## 川崎病血管病変の原因に関する研究

武 村 民 子\*

**要約：**4例の川崎病部検例の冠動脈病変部における起因体として溶連菌を想定し、その存在を確認するため、A群溶連菌に対する抗血清を用いてパラフィン切片上で酵素抗体法を施行した。陽性対照にみられる菌体の微細顆粒状陽性所見は冠動脈炎部には認められなかった。

**見出し語：**川崎病，冠動脈病変，溶連菌

**研究方法** 川崎病は冠動脈炎を一つの特徴とするが、冠動脈病変成立にA群溶連菌が起因体として関与するかどうかを明らかにするため、今回は川崎病4例の剖検例の冠動脈病変部のパラフィン切片について抗A群溶連菌抗体を用いた酵素抗体法で検索した。4例中1例はA群溶連菌敗血症で死亡した例で、その化膿性腹膜炎の菌のコロニーのある部分を陽性対照として用いた。

**結果** 冠動脈炎は3例に新鮮血栓があり、内膜の肥厚、中膜の菲薄化、弾性板の破綻を示し、全層性～内膜側に単核細胞の浸潤がみられる。陽性対照では化膿巣内に球菌が微細顆粒状にみられる

が、冠動脈病変部には明らかな陽性像は認められなかった。

**考察** 溶連菌そのものが冠動脈病変部に存在するかどうかを抗溶連菌抗体を用いて検索したが陽性対照にみられるような微細顆粒状陽性像は得られなかった。しかし溶連菌の菌体成分、即ち蛋白質やDNA等がその病変部に存在するかもしれないという可能性は否定できず、更に検討していかなければならないと考える。

---

\* 日本赤十字社医療センター 病理

Department of pathology, Japanese Red Cross Medical Center

### Abstract

To detect the pathogenic agent in the lesion of coronary arteritis of Kawasaki's disease, immunohistochemical study using anti-A group streptococcus antibody was performed on the paraffin sections of 4 cases with Kawasaki's disease. The colonies of streptococcus used as positive control revealed fine granular positive staining. However, there was no positive granular materials in the coronary arteritis lesion.



## 検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用

論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



要約:4 例の川崎病剖検例の冠動脈病変部における起因体として溶連菌を想定し,その存在を確認するため,A 群溶連菌に対する抗血清を用いてパラフィン切片上で酵素抗体法を施行した.陽性対照にみられる菌体の微細顆粒状陽性所見は冠動脈炎部には認められなかった.